

和地ひとみレポート No.101



認知症サポーター2,000人達成記念講演会『元気ゆうゆうライフ in 東大和 2013』開催

介護予防事業の効果の見える化と今後に期待

■東大和市には認知症サポーターが2000人

…11月21日ハミングホール大ホールにて『元気ゆうゆうライフ in 東大和 2013』が開催されました。今回のイベントでは市が平成18年度から養成している『認知症サポーター』が平成24年度末に2,000人に達したことの記念講演と、高齢者がいつまでも元気でいきいきと生活するために実施している事業の中の主に介護予防リーダーが中心となり行われている活動の発表が行われ、市が介護予防のために開発した『東大和元気ゆうゆう体操』の普及のための実演も行われました。…記念講演の演題は「認知症になっても自分らしく～住み慣れた地域で暮らしていくために、できることは?～」で、東京都認知症疾患医療センター相談員の間渕由紀子氏が実際の介護経験を通して、自分で出来ること、周りができることを一緒に考えていくということ丁寧にお話ししてくださいました。また、そのお話の中で間渕氏は「東大和市の人口を考えると認知症サポーターが2,000人ということは非常に多い」と東大和市の状況を評価されていました。

■認知症サポーターとは

…東大和市で2,000人を達成した『認知症サポーター』とは、認知症を理解し支援する人。誰もが認知症についての正しい知識を持ち、認知症の人や介護をする家族を支え、理解し、気づかひできる、暮らしやすい地域を作っていく運動として平成17年から各地で始まった「認知症を知り地域をつくる」キャンペーンの一環である「認知症サポーター100万人キャラバン」により、平成21年には目標とした100万人を突破し、現在のサポーター数は410万人を超えている状況です。全国では養成された100歳の方から幼稚園児までが様々な活躍をしているとのことです。

…東大和市では、平成18年から認知症サポーター養成講座をスタート。現在もさらに多くの方々に認知症サポーターになっていただけるよう定期講座を開催するだけでなく、地域の自治会や老人クラブ、企業、ボランティア活動を行っている方々などを対象とする、団体向けの「認知症サポーター養成講座」の申し込みを受け付けています。講座の講師は、市職員または高齢者ほっと

支援センター職員で費用は1人あたり100円の資料代のみ。

講座の所要時間は、1時間から1時間30分程度で修了者には、認知症サポーターのシンボルグッズである「オレンジリング(手首などに付けるもの)」が渡されます。

■介護予防活動の効果を広めるために

…認知症は誰にでも起こりうる「脳の病気」ということは、多くの方が認識している状況で、万が一発病しても暮らしやすい地域であることは大切なことです。しかし、できる限り発病しないよう予防したい、また、認知症以外でも介護が必要となる生活はできる限り防ぎたいと誰もが考えると思います。そのような予防のための取り組みとして東大和市では平成22年より介護予防リーダーの養成をスタートし、高齢者がいつまでも元気でいきいきと生活するために市内在住の65歳以上の方等を対象とした介護予防事業を行っています。様々なサロン活動の他、東京都健康長寿医療センター、介護予防体操制作検討会により約560万円かけて開発した『東大和元気ゆうゆう体操』も介護予防事業の目玉として普及活動が行われています。

…今回のイベントでは多くの方が関心を持ってイベントに参加されている状況を目にしました。このような取り組みは、市の財政負担の軽減効果もさることながら、高齢者自身、ご家族や周りの方々までを安心、幸せにする事業ですので、是非とも更に発展させ進めてもらいたい。しかし、その一方で、以前、和地ひとみが議会で取り上げたように、他自治体のように「介護予防事業の効果」が見える化し、多くの方に知ってもらえる取り組みも市は同時に行っていくべきだと改めて思いました。

例えば『東大和元気ゆうゆう体操』を行っている方とそうでない方との医療費の違いなどを経年的に測定するなど他自治体でも行っていること。観光事業など「東大和市の名前を広める、メジャーにする」ことを目的の一つに取り組んでいる他事業もあり、東大和市はPR下手だという認識を市では持っているようですが、このような事業こそ、見える化し、市の内外に発信することが、市民にとっても価値あるPRとなるのではないかと考えます。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート

「身近なようで知らなかった市政、議会。伝えることがスタートだと思います。」

【プロフィール】1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山奥の小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。学校以外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク(※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換)に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。その後、人材開発部長を拝命。『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後もベンチャー企業を選び不動産投資会社に勤務。同じビジネス界出身の加藤公一代議士との出会いに触発され、政治への道を志して2010年末に退社。現在、新人東大和市議会議員として、日々、奮闘中。

■ 連絡先 和地ひとみ事務所 HP: <http://www.wachi1103.jp>

✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】042-516-8546

〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102



東大和市 市議会議員

和地ひとみ